

**CONTROL DEVICE FOR BASIC OPERATION ALLOWED TO BE ACCESSED FROM EXTERNAL APPLICATION AND BASIC OPERATION PACKAGE**

**Patent number:** JP2001282513

**Publication date:** 2001-10-12

**Inventor:** WADA SHIGEFUMI; NAKAYAMA SHIGERU;  
TAKAHASHI TOMOHISA; KIMURA KENJI

**Applicant:** OBIC BUSINESS CONSULTANTS LTD

**Classification:**

- international: **G06F9/06; G06F9/445; G06F9/06; G06F9/445; (IPC1-7): G06F9/06; G06F9/445; G06F17/60**

- european:

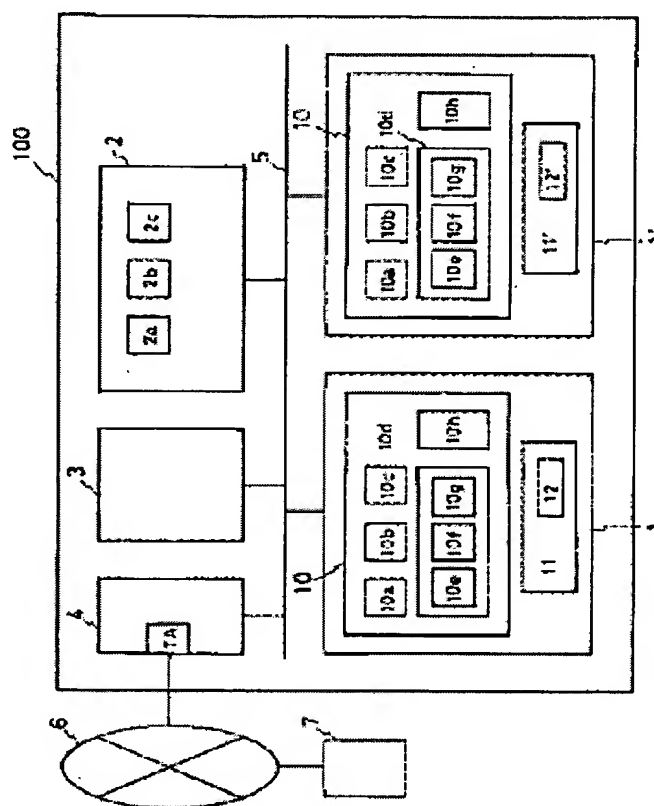
**Application number:** JP20000101106 20000403

**Priority number(s):** JP20000101106 20000403

**Report a data error here**

**Abstract of JP2001282513**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a basic operation control device for efficiently and collectively processing operation by an external application program even when operation processing based on a basic operation package consisting of plural operation programs is performed for plural operation programs. **SOLUTION:** The control device is provided with an access control means consisting of a main menu access function, an access start function and a menu end function allowed to be accessed from the external application program.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-282513

(P2001-282513A)

(43) 公開日 平成13年10月12日 (2001. 10. 12)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	キーワード* (参考)
G 0 6 F 9/06	4 1 0	G 0 6 F 9/06	4 1 0 S 5 B 0 4 9
9/445		17/60	1 6 0 5 B 0 7 6
17/60	1 6 0		1 6 6
	1 6 6		1 7 0 E
	1 7 0	9/06	4 2 0 C
審査請求 有 請求項の数16 O L (全 9 頁)			

(21) 出願番号 特願2000-101106 (P2000-101106)

(22) 出願日 平成12年4月3日 (2000. 4. 3)

(71) 出願人 593089895

株式会社オービックビジネスコンサルタン  
ト

東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

(72) 発明者 和田 成 史

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内

(72) 発明者 中 山 茂

東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内

(74) 代理人 100093399

弁理士 瀬谷 徹 (外2名)

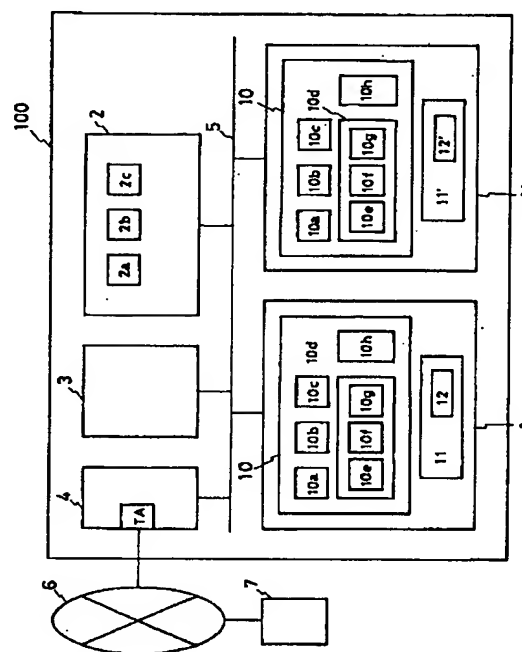
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置並びに基幹業務パッケージ

(57) 【要約】

【課題】 複数の業務プログラムからなる基幹業務パッケージによる業務処理において、複数の業務プログラムにわたる処理であっても、外部アプリケーションプログラムにより効率よく一括して処理する基幹業務制御装置とそのパッケージとを提供する。

【解決手段】 外部アプリケーションプログラムから呼出せるメインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メニュー終了関数からなる呼出制御手段を備える。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 企業基幹業務を遂行する複数の業務プログラムからなる基幹業務パッケージを処理する端末機部と、その処理に必要な情報データを記憶するデータベース部とを少なくとも備えたコンピュータシステムにおいて、それら業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムに分割して、外部アプリケーションからユーザーが処理したい複数の前記処理プログラムを呼出し起動して前記業務プログラム間にわたる処理が一括して実行できる呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージを用いる

基幹業務制御装置であって、  
前記呼出制御手段は、ユーザーが必要とする前記処理プログラムをメインメニュー項目に設けてカスタマイズしたメニュープログラムを含むユーザー作成のアプリケーションプログラムからの呼出しに対して応答可能状態にするメインメニュー実行プログラムと、

前記メインメニュー実行プログラムを呼出して前記コンピュータシステム内部に起動状態で常駐させるメインメニュー呼出関数と、

前記メインメニュー項目にそれぞれ対応した前記処理プログラムを前記アプリケーションプログラムにより呼出し起動させる処理プログラム毎の呼出起動関数群と、

前記メインメニュー実行プログラムを終了させるメインメニュー終了関数とを備え、

前記アプリケーションプログラムでは、最初にメインメニュー呼出関数によりメインメニュー実行プログラムを起動させておき、次にユーザーが処理したい処理プログラム対応の呼出起動関数により呼出し、その処理プログラムを起動してその業務処理を実行し、その処理が終了すれば、最後にメインメニュー終了関数によりメインメニュー応答プログラムを終了させることを特徴とする外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項2】 前記メインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メインメニュー終了関数の3種類の関数群は、ダイナミック・リンク・ライブラリ(DLL)ファイルに格納され、外部アプリケーションプログラムによりそれらの関数が前記ファイルより逐次呼出されることを特徴とする請求項1記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項3】 前記メインメニュー実行プログラムが起動状態にあるときは、表示画面のタスクトレイの中にアイコン表示されることを特徴とする請求項1又は2記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項4】 前記メインメニュー呼出関数は、その関数に引数を有し、その引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名であることを特徴とする請求項1、2又は3記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項5】 前記呼出起動関数群は、その関数に2引数を有し、第1引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名、第2引数は前記処理プログラム毎に予め定められた識別符号又は番号であることを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項6】 前記呼出起動関数が実行するに際してメインメニュー実行プログラムが起動状態にあるかを判断し、起動されていない場合は、メインメニュー呼出関数を起動させた後、その呼出起動関数を実行することを特徴とする請求項1、2、3、4又は5記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項7】 前記DLLファイルの関数を用いたアプリケーションにより各業務プログラムの前記処理プログラムを開いた場合は、同時実行制限及び実行権限の有無について、システムがチェックし、必要に応じてメッセージを表示し、その制限手段を備えることを特徴とする請求項1、2、3、4、5又は6記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項8】 前記基幹業務パッケージは少なくとも財務会計業務、販売/仕入管理業務、給与計算業務及びその関連業務のいずれかを含むことを特徴とする請求項1記載の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置。

【請求項9】 企業基幹業務をコンピュータシステム上で遂行する複数の業務プログラムからなる業務パッケージにおいて、それらの業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムを分割して外部アプリケーションからユーザーが処理したい複数の前記処理プログラムを呼出し起動して前記業務プログラム間にわたる処理が一括して実行できる呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージであって、

前記呼出制御手段はユーザーが必要とする前記処理プログラムをメイン項目に設けて、カスタマイズしたメニュープログラムを含むユーザー作成のアプリケーションプログラムからの呼出しに対して応答可能状態にするメインメニュー実行プログラムと、

前記メインメニュー実行プログラムを呼出して前記コンピュータシステム内部に起動状態で常駐させるメインメニュー呼出関数と、

前記メインメニュー項目にそれぞれ対応した前記処理プログラムをアプリケーションプログラムにより呼出し起動させる処理プログラム毎の呼出起動関数群と、

前記メインメニュー実行プログラムを終了させるメインメニュー終了関数を備えることを特徴とする基幹業務パッケージ。

【請求項10】 前記メインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メインメニュー終了関数の3種類の関数群は、ダイナミック・リンク・ライブラリ(DLL)ファイルに格納され、外部アプリケーションプログラムによ

りそれらの関数が前記ファイルより逐次呼出されることを特徴とする請求項9記載の基幹業務パッケージ。

【請求項11】 前記メインメニュー実行プログラムが起動状態にあるときは、表示画面のタスクトレイの中にアイコン表示されることを特徴とする請求項9又は10記載の基幹業務パッケージ。

【請求項12】 前記メインメニュー呼出関数は、その関数に引数を有し、その引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名であることを特徴とする請求項9、10又は11記載の基幹業務パッケージ。

【請求項13】 前記呼出起動関数群は、その関数に2引数を有し、第1引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名、第2引数は前記処理プログラム毎に予め定められた識別符号又は番号であることを特徴とする請求項9、10、11又は12記載の基幹業務パッケージ。

【請求項14】 前記呼出起動関数が実行するに際してメインメニュー実行プログラムが起動状態にあるかを判断し、起動されていない場合は、メインメニュー呼出関数を起動させた後、その呼出起動関数を実行することを特徴とする請求項9、10、11、12又は13記載の基幹業務パッケージ。

【請求項15】 前記DLLファイルの関数を用いたアプリケーションにより各業務プログラムの前記処理プログラムを開いた場合は、同時実行制限及び実行権限の有無について、システムがチェックし、必要に応じてメッセージを表示し、その制限手段を備えることを特徴とする請求項9、10、11、12、13又は14記載の基幹業務パッケージ。

【請求項16】 前記基幹業務パッケージは少なくとも財務会計業務、販売／仕入管理業務、給与計算業務及びその関連業務のいずれかを含むことを特徴とする請求項9記載の基幹業務パッケージ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、企業基幹業務を遂行する複数の業務プログラムからなる基幹業務パッケージを処理するに際して、外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置並びにその装置に用いる基幹業務パッケージに関する。

【0002】

【従来の技術】あらゆる企業において、事業内容の相違はあっても共通する基幹業務が存在する。基幹業務には、事業収入と事業に伴う費用などの支出、いわゆる事業収支を管理する財務会計業務と、事業対象の生産物や、商品サービスを提供する得意先、仕入やサービスの提供を受ける取引先との取引内容を記録管理する販売・仕入管理業務と、社員・従業員の給与計算支払いを管理する給与計算業務が少なくとも挙げられる。

【0003】前記基幹業務は、事業形態や、事業分野が

異なっても記録管理しなければならない項目、処理方法の共通性が非常に高く、企業において最も業務処理量が多く、さらに毎日、毎月繰り返し発生し、処理しなければならない性格を持つ。この基幹業務はコンピュータの利用による大量処理、正確性、迅速性の効果が最も発揮できる分野である。このため、これらの業務処理を行う多数の業務プログラムの基幹業務パッケージが開発されて多くの企業で利用されている。

【0004】多くの企業で利用されているこの基幹業務パッケージは、パーソナルコンピュータ及びオペレーティングシステムの進化に合わせ、グラフィックユーザインタフェース（GUI）や、高速の検索並替機能等を有するリレーショナルデータベース管理システムを土台として、さらにネットワークにも対応して企業資源データ共有利用の環境が整えられている。この開発は、財務会計・給与計算・販売・仕入管理の専門職と、システムエンジニアなどの人的資源を多数投入して行われるため理想的な基幹業務処理のモデルとなっている。このような理想的な業務管理機能を活用することで管理のレベルを上げることが可能であり、ことに人的資源の確保に悩む中小企業や、新規事業を開始したベンチャー企業において基幹業務パッケージが多数利用されている。

【0005】反面、これらの基幹業務パッケージでは、業種による特殊管理項目や、経営者毎に異なる経営理念に基づく斬新な経営手法実現のための管理項目、方法をカバーすることができないという問題があった。このため、独自の管理方式適用の歴史を有する企業などでは、独自の管理方式を組み込んだアプリケーションプログラムを開発して利用している。これらの従来からのユーザーアプリケーションプログラムの独自の処理と、オペレーティングシステムの進化に合わせ、グラフィックユーザインタフェース（GUI）や、高速の検索並替機能を有するリレーショナルデータベース管理システムを土台として、さらにネットワークにも対応して企業資源データ共有利用の環境が整えられている基幹業務パッケージの標準的な処理を組み合わせたいという要望があった。

【0006】これらの問題解決には、企業独自の管理方式適用アプリケーションプログラムから、基幹業務パッケージの各業務処理プログラムを呼出して実行する方式が求められていた。しかし、それぞれのプログラムは、いずれか一方を終了するか、保留して別のプログラムのメインメニュー画面から必要な処理を選択して実行処理しなければならない。このため、煩わしいと共に処理切替えの時間を要する問題があった。

【0007】また、基幹業務パッケージの利用に際して、企業内の利用部門毎に日常使用する処理業務の違いがある。例えば、仕入を担当する資材部門では、発注伝票、仕入伝票の入力が日常処理であり、顧客からの注文を受ける営業部門では、受注伝票や売上伝票の入力が日

常処理である。システムを管理する部門では基幹業務パッケージの導入処理メニューの会社データ登録や、ユーザー権限登録等を行う。しかし、基幹業務パッケージのメインメニューはパッケージの全ての業務処理を選択できるメニュー画面となっているため前述のように一部の機能を利用する資材部門、営業部門の担当者にとっては必要のない機能のメニューから選択する形態となっていた。さらには、システム管理者以外に使用させたくない機能も表示されており、選択される不都合があった。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、前述の問題に鑑みてなされたものである。業務プログラム内の各種処理メニューからその実用ファイルである処理プログラムを直接起動することはできない。その関連処理プログラムとの間に不整合が起るからである。そこで、その処理プログラムを開くときは、その前にその業務プログラムのメインメニュープログラムを開いておくようにして、ユーザー独自のアプリケーションにより、その必要とする処理プログラムにアクセスできるようにした。

【0009】この方法によって、ユーザー独自のアプリケーションプログラムのメニュー項目画面を作成し、また基幹業務パッケージの中の複数の業務プログラム間にわたる処理プログラムを外部アプリケーションプログラムから呼出せるようにして、その処理を一括して遂行できる作業効果のよい基幹業務制御装置を提供する。また、そのような外部アプリケーションから呼出し可能な制御プログラムを含めた基幹業務パッケージを提供する。

【0010】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、本発明の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置は、企業基幹業務を遂行する複数の業務プログラムからなる基幹業務パッケージを処理する端末機部と、その処理に必要な情報データを記憶するデータベース部とを少なくとも備えたコンピュータシステムにおいて、それら業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムに分割して、外部アプリケーションからユーザーが処理したい複数の前記処理プログラムを呼出し起動して前記業務プログラム間にわたる処理が一括して実行できる呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージを用いる基幹業務制御装置であって、前記呼出制御手段は、ユーザーが必要とする前記処理プログラムをメインメニュー項目に設けてカスタマイズしたメニュープログラムを含むユーザー作成のアプリケーションプログラムからの呼出しに対して応答可能状態にするメインメニュー実行プログラムと、前記メインメニュー実行プログラムを呼出して前記コンピュータシステム内部に起動状態で常駐させるメインメニュー呼出関数と、前記メインメニュー項目にそれぞれ対応した前記処理プログラムを前記アプリケーションプログラムにより呼出し起動させる処理

プログラム毎の呼出起動関数群と、前記メインメニュー実行プログラムを終了させるメインメニュー終了関数とを備え、前記アプリケーションプログラムでは、最初にメインメニュー呼出関数によりメインメニュー実行プログラムを起動させておき、次にユーザーが処理したい処理プログラム対応の呼出起動関数により呼出し、その処理プログラムを起動してその業務処理を実行し、その処理が終了すれば、最後にメインメニュー終了関数によりメインメニュー応答プログラムを終了させることを特徴とする。

10

【0011】また、前記メインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メインメニュー終了関数の3種類の関数群は、ダイナミック・リンキング・ライブラリ(DLL)ファイルに格納され、外部アプリケーションプログラムによりそれらの関数が前記ファイルより逐次呼出されることを特徴とする。

【0012】また、前記メインメニュー実行プログラムが起動状態にあるときは、表示画面のタスクトレイの中にアイコン表示されることを特徴とする。

20

【0013】また、前記メインメニュー呼出関数は、その関数に引数を有し、その引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名であることを特徴とする。

【0014】また、前記呼出起動関数群は、その関数に2引数を有し、第1引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名、第2引数は前記処理プログラム毎に予め定められた識別符号又は番号であることを特徴とする。

【0015】また、前記呼出起動関数が実行するに際してメインメニュー実行プログラムが起動状態にあるかを判断し、起動されていない場合は、メインメニュー呼出関数を起動させた後、その呼出起動関数を実行することを特徴とする。

30

【0016】また、前記DLLファイルの関数を用いたアプリケーションにより各業務プログラムの前記処理プログラムを開いた場合は、同時実行制限及び実行権限の有無について、システムがチェックし、必要に応じてメッセージを表示し、その制限手段を備えることを特徴とする。

40

【0017】また、前記基幹業務パッケージは少なくとも財務会計業務、販売／仕入管理業務、給与計算業務及びその関連業務のいずれかを含むことを特徴とする。

【0018】本発明の基幹業務パッケージは、企業基幹業務をコンピュータシステム上で遂行する複数の業務プログラムからなる業務パッケージにおいて、それらの業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムを分割して外部アプリケーションからユーザーが処理したい複数の前記処理プログラムを呼出し起動して前記業務プログラム間にわたる処理が一括して実行できる呼出制御手段を備える基幹業務パッケージであって、前記呼出制御手段はユーザーが必要とする前記処理プログラムをメイ

50

ン項目に設けて、カスタマイズしたメニュープログラムを含むユーザー作成のアプリケーションプログラムからの呼出しに対して応答可能状態にするメインメニュー実行プログラムと、前記メインメニュー実行プログラムを呼出して前記コンピュータシステム内部に起動状態で常駐させるメインメニュー呼出関数と、前記メインメニュー項目にそれぞれ対応した前記処理プログラムをアプリケーションプログラムにより呼出し起動させる処理プログラム毎の呼出起動関数群と、前記メインメニュー実行プログラムを終了させるメインメニュー終了関数を備えることを特徴とする。

【0019】また、前記メインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メインメニュー終了関数の3種類の関数群は、ダイナミック・リンキング・ライブラリ(DLL)ファイルに格納され、外部アプリケーションプログラムによりそれらの関数が前記ファイルより逐次呼出されることを特徴とする。

【0020】また、前記メインメニュー実行プログラムが起動状態にあるときは、表示画面のタスクトレイの中にアイコン表示されることを特徴とする。

【0021】また、前記メインメニュー呼出関数は、その関数に引数を有し、その引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名であることを特徴とする。

【0022】また、前記呼出起動関数群は、その関数に2引数を有し、第1引数はメインメニュー実行プログラムのあるフォルダ名、第2引数は前記処理プログラム毎に予め定められた識別符号又は番号であることを特徴とする。

【0023】また、前記呼出起動関数が実行するに際してメインメニュー実行プログラムが起動状態にあるかを判断し、起動されていない場合は、メインメニュー呼出関数を起動させた後、その呼出起動関数を実行することを特徴とする。

【0024】また、前記DLLファイルの関数を用いたアプリケーションにより各業務プログラムの前記処理プログラムを開いた場合は、同時実行制限及び実行権限の有無について、システムがチェックし、必要に応じてメッセージを表示し、その制限手段を備えることを特徴とする。

【0025】また、前記基幹業務パッケージは少なくとも財務会計業務、販売／仕入管理業務、給与計算業務及びその関連業務のいずれかを含むことを特徴とする。

【0026】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を以下の図に基づき説明する。図1には本発明の一実施例である外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置100を示す。また、図1において、10は本発明の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務パッケージの一実施例を示すものである。

【0027】ここで、1、1'は本装置100の端末機

部である。2はデータベース部であり、2aは販売／仕入管理業務用データベース、2bは財務会計管理業務用データベース、2cはその他管理業務用データベースである。

【0028】3はそのデータベース2のサーバ機部、4はISDN回線6に接続する通信回線接続回路部、5はLAN、7は取引銀行のコンピュータシステムである。

【0029】次に、端末機部1、1'にロードされている本発明の外部アプリケーションから呼出し可能な呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージ10について以下にその構成を詳細に示す。

【0030】10a、10b、10cは業務プログラムであり、それぞれこの例では販売／仕入管理、財務会計管理、エレクトロニック・バンキング・システム及びその他の業務プログラムを示す。

【0031】ここで、これらの多くの部門の業務にわたる基幹業務パッケージに、より効率よく処理を実行できるように、ユーザーはアプリケーションプログラム11、11'を作成する。

【0032】基幹業務パッケージ10は複数の業務プログラムからなっているが、それらの業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムに分割して、その分割した処理プログラムからユーザーが必要とするメインメニュー項目としたカスタマイズしたメニュープログラム12、12'を含めて前記アプリケーションプログラム11、11'を予め作成する必要がある。

【0033】そこで、基幹業務パッケージ10は、複数の業務プログラムに加えて、前記アプリケーションプログラム11、11'により呼出し可能とするため、メインメニュー実行プログラム10h及び3種類の関数群10e、10f、10gからなる前記呼出制御手段を備える。その構成を以下に述べる。

【0034】メインメニュー実行プログラム10hは、そのメインメニュー項目について、ユーザー作成のアプリケーションプログラム11からの呼出しに対して常時応答可能状態にするものである。

【0035】関数10eは、そのメインメニュー実行プログラム10hを呼出して、端末機部1のシステム用RAMに起動状態で常駐させるメインメニュー呼出関数10eである。

【0036】なお、メインメニュー実行プログラム10hが起動状態にあるときは表示画面のタスクトレイの中にアイコン表示されるようにする。

【0037】関数10fは、メインメニュー項目にそれぞれ対応した前記処理プログラムを外部アプリケーションプログラム11により呼出し起動させる、各処理プログラム毎の呼出起動関数群10fである。

【0038】関数10gは、メインメニュー実行プログラム10hを終了させるメインメニュー終了関数10gである。

【0039】メインメニュー呼出関数10eの引数は1つであり、メインメニュー実行プログラム10hのあるフォルダ名である。なお、引数のないメインメニュー呼出関数10e'もあり、DLLファイル10d、メインメニュー実行プログラム10h、ユーザーが作成した呼出元のアプリケーションプログラム11が同一フォルダのとき使用できる。

【0040】呼出起動関数群10fはそれぞれ2つの引数があり、第1引数はメインメニュー実行プログラム10hのあるフォルダ名、第2引数は前記処理プログラム毎に予め定められた識別符号又は番号とする。なお、第1引数のない呼出起動関数群10f'もあり、DLLファイル10d、メインメニュー実行プログラム10h、アプリケーションプログラム11が同一フォルダのとき使用できる。

【0041】また、呼出起動関数10fが実行するに際してメインメニュー実行プログラム10hが起動状態にあるかをシステムは判断し、起動されていない場合は、システムはメインメニュー呼出関数10eを起動させてからその呼出起動関数10fを実行させる。

【0042】次に、本発明の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置における業務プログラム処理の流れと、その装置にロードされている呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージの動作を図2の流れ図に基づいて説明する。

【0043】まず、ユーザーが多くの部門の業務にわたる前記処理プログラムから必要とする処理プログラムをメインメニュー項目に設けて、カスタマイズしたメニュープログラム12を作成し、さらにそのメニュープログラム12を含めたアプリケーションプログラム11を作成し、起動する(S21)。

【0044】次に、アプリケーション11のプログラムでまず、呼出関数10eによりメインメニュー実行プログラム10hを起動させる。メインメニュー実行プログラム10hのパスは呼出関数10eの引数にあるそのフォルダ名でシステムに知らせる(S22)。

【0045】ここで、メインメニュー実行プログラム10hは起動状態でコンピュータシステムのRAMメモリに常駐して、いつでもアプリケーションプログラム11からの処理プログラム呼出しに応答できる状態とする。

【0046】起動状態では、表示画面のタスクトレイ中にアイコン表示される。

【0047】次に、ユーザー作成のアプリケーションプログラム11中の呼出起動関数10fにより、それに対応する処理プログラムが起動され、それぞれの個々のメニュー画面やデータ入力画面が表示され業務処理を行う(S23)。

【0048】それら一連の業務は、従来ならば部門の異なる業務プログラム毎にその業務プログラム毎に切替えて行われていたが、ここでは部門の異なる業務プログラ

ムにわたっていても、ユーザーが作成したメニュープログラム12にそれらの部門にわたる処理プログラムをメニュー項目に入れておけば一括してその業務を行うことができる。

【0049】なお、それらの処理プログラムはそのプログラム毎に予め定められた識別符号又は番号を有し、ユーザーが作成するメニュープログラム11は、メニュー項目名にこれらの識別符号又は番号が付されている。

【0050】前記呼出起動関数群10fはそれぞれ2つの引数を有し、第1引数はメインメニュー実行プログラム10hのあるフォルダ名であり、第2引数は処理プログラム毎に定められたその識別符号又は番号がセットされる。その識別符号により、それに対応する処理プログラムを起動することができる。

【0051】また、呼出起動関数10fが実行するに際し、メインメニュー実行プログラム10hが起動状態にない場合は、第1引数にあるメインメニュー実行プログラム10hへのパスにより、そのプログラム10hを起動して、呼出起動関数10fを実行することができる。

【0052】また、以上のDLLファイル10dの関数を用いたアプリケーション11、11'により各業務プログラムの前記処理プログラムを開いた場合、同時実行制限及び実行権限の有無について、コンピュータシステムがチェックし、不整合な入力データなどが生じる場合、必要に応じてメッセージを表示し、その制限手段を備えている。

【0053】次に、業務が終了すればメインメニュー終了関数10gによりメインメニュー実行プログラム10hを終了させる(S24)。ここで、その起動状態を示すアイコン表示が消える。

【0054】最後にユーザー作成のアプリケーション11を終了させる(S25)。

【0055】図3、図4に具体的な実施例を示す。図3はDLLファイルに格納されている①メインメニュー呼出関数10e、②呼出起動関数10f、③メインメニュー終了関数10gを示す。それぞれ関数名は、HERpOpen\_MainProcess、HERpOpen\_EachMenu、HERpClose\_MainProcessとなっている。

【0056】図4は基幹業務パッケージの各業務プログラムを単位ルーチン毎の処理プログラムに分割して識別番号を付して、処理プログラムのメニュー名と対応させたリスト表である。業務種別は共通のものであれば、業務プログラムに専用のものもある。

【0057】図3における②呼出起動関数10fの第2引数は図4の識別番号をセットすれば、その処理プログラムを呼出し起動できる。

【0058】

【発明の効果】本発明の外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置並びに基幹業務パッケージは

11

以下のような効果を奏する。

【0059】基幹業務パッケージにある各種業務処理プログラムをユーザーが作成する外部アプリケーションにより開くことができる。

【0060】従って、また複数の業務プログラム間に行わたる処理プログラムを実行する外部アプリケーションを作成して、効率よく一括してその業務を実行することができる。

【0061】また、そのアプリケーションはカスタマイズしたメニュープログラムを含めて作成するが、そこで不要なメニューは削除して必要なメニュー項目だけに行することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の基幹業務制御装置100並びに基幹業務パッケージ10のブロック構成図である。

【図2】本発明の基幹業務処理の流れ図である。

【図3】DLLファイルに格納しているメインメニュー呼出関数、呼出起動関数、メインメニュー終了関数の具体例を示す図である。

【図4】分割した処理プログラム毎にそのメニュー名と識別番号対応表を示すリスト図である。

【符号の説明】

1, 1' 端末機部

\*

\* 2 データベース部

2 a 販売／仕入管理業務用データベース

2 b 財務会計管理業務用データベース

2 c その他管理業務用データベース

3 データベースサーバ機部

4 通信回線接続回路部

5 LAN

6 ISDN回線

7 銀行のコンピュータシステム

10 呼出制御手段を備えた基幹業務パッケージ

10 a 販売／仕入管理業務プログラム

10 b 財務会計管理業務プログラム

10 c エレクトロニック・バンキング・システム及びその他の業務プログラム

10 d DLLファイル

10 e メインメニュー呼出関数

10 f 呼出起動関数群

10 g メインメニュー終了関数

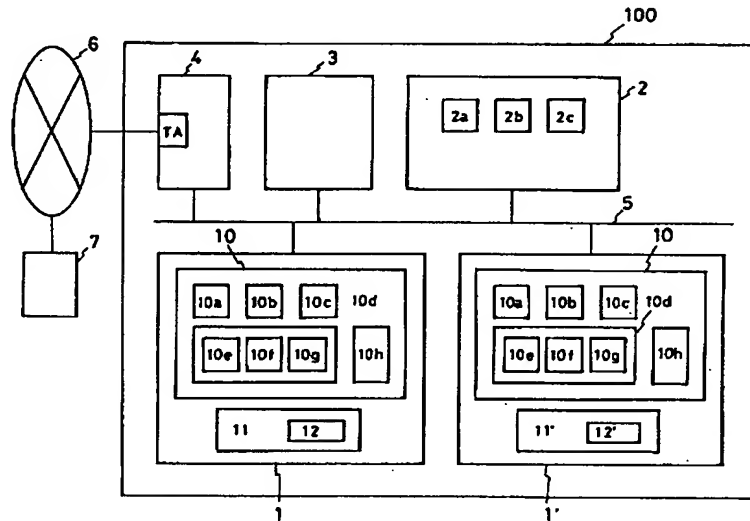
10 h メインメニュー実行プログラム

11, 11' アプリケーションプログラム

12, 12' カスタマイズしたメニュープログラム

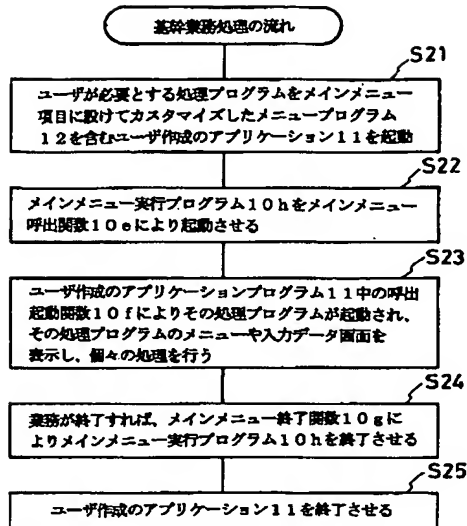
100 外部アプリケーションから呼出し可能な基幹業務制御装置

【図1】





【図2】



【図3】

## ① メインメニュー呼出関数10e

```
1. short HExpOpen_MainProcess(LPSTR rlpProgPath);
```

関数名: HExpOpen\_MainProcess

引 数: メインメニュー実行プログラムの入っているフォルダ名

最後のバースクは無ければ内部で付加。終端コードはNULL(0x00)。

戻り値: 0..正常終了、1..エラー

## ② 呼出起動関数10f

```
1. void HExpOpen_EachMenu(LPSTR rlpProgPath, short vszMenuNo);
```

関数名: HExpOpen\_EachMenu

引 数: 第一引数...メインメニュー実行プログラムの入っているフォルダ名。終端コードはNULL(0x00)。

メインメニューが何らかの理由で終了していた場合に、内部で

①の関数も実行するための引数

第二引数...開きたいメニューの識別番号(図4参照)

戻り値: なし

## ③ メインメニュー終了関数10g

```
short HExpClose_MainProcess();
```

関数名: HExpClose\_MainProcess

引 数: なし

戻り値: 0..正常終了、1..終了できない

備 考: メインメニューは、各処理メニューが起動したままでは終了できない。  
(その場合には、1が返される。)

【図4】

● 入力処理

識別番号	メニュー名	処理説明
201	会社概要検索	
202	会社住所検索	
203	商品検索	
204	商品一覧検索	
205	販売履歴検索	
206	商品区分検索	
207	得意先検索	
208	得意先一覧検索	
209	得意先区分検索	
210	得意先別得意先別得意先検索	
211	仕入先検索	
212	仕入先一覧検索	
213	仕入先区分検索	
214	得意先検索	
215	得意先一覧検索	
216	得意先区分検索	
217	得意先検索	
218	会社概要検索	
219	会社住所検索	
220	会社住所検索	
221	会社住所検索	

● 売上処理

識別番号	メニュー名	処理説明
301	売上検索	
302	受注検索	
303	受注履歴検索	
304	受注内訳検索	
305	見解書	
306	見解書検索	
307	入金伝票	
308	入金伝票検索	
309	銀行振込入金伝票	
310	入金伝票検索	
311	銀行振込入金伝票検索	
312	入金伝票検索	
313	入金伝票検索	
314	入金伝票検索	
315	入金伝票検索	
316	入金伝票検索	
317	入金伝票検索	

● 仕入処理

識別番号	メニュー名	処理説明
001	入金データ入力	
002	受取データ入力	
003	受取データ検索	
004	受取データ検索	
005	受取データ検索	

● 仕入処理

識別番号	メニュー名	処理説明
001	仕入伝票	
002	仕入伝票	
003	仕入伝票	
004	仕入伝票	
005	仕入伝票	
006	仕入伝票	
007	仕入伝票	
008	仕入伝票	
009	仕入伝票	
010	仕入伝票	
011	仕入伝票	
012	仕入伝票	
013	仕入伝票	
014	仕入伝票	
015	仕入伝票	
016	仕入伝票	
017	仕入伝票	
018	仕入伝票	
019	仕入伝票	
020	仕入伝票	
021	仕入伝票	

フロントページの続き

(72)発明者 高 橋 知 久  
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内

(72)発明者 木 村 謙 二  
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 株式  
会社オービックビジネスコンサルタント内  
Fターム(参考) 5B049 AA01 AA04 AA06 BB07 BB11  
CC05 DD01 EE01 EE05 EE58  
GG04 GG07  
5B076 AB10 AB17